

沖縄県那覇市首里方言の原因・理由表現

仲 原 穰

I. 調査の概要

本稿は首里方言の原因・理由表現の調査結果をまとめたものである。首里はかつて琉球国の国王が居城とした首里城の城下町として栄えたところであった。首里は沖縄島南部の中央部に位置し、天気の良い日には那覇の港や沖縄島南部の街並み、周辺の島々まで見渡すことができる。19世紀後半のいわゆる「琉球処分」によって、琉球藩を経て沖縄県となり、古都首里も首里市となった。後に那覇市と合併し、現在は那覇市の一部となったが、現在でも琉球の文学や芸能（琉歌・組踊など）が首里方言を基盤にしているため、琉球方言のなかでも那覇方言などと共に代表的な方言の一つである。

首里方言のインフォーマントはA氏（男性、1932〔昭和7〕年生）で、首里で生まれ育ち、現在も首里で暮らしている。首里方言はサムレー、ユカッチュなどと称される士族のことばと一般の平民（ヒャクショーと称される）のことばに大別されるが、A氏は士族の家柄で、兄や姉に囲まれて育った末子であることもあり、年齢的には74歳（調査時）であるが同年代の人々に比べて首里の伝統的なことばを保持している。

調査は2006年11月から2007年2月の間に行った。調査には前田・日高・小西・船木（2006）を使用し、調査者が項目を読み上げ、それを訳してもらうという方法で行った。

本稿の首里方言の表記は、西岡・仲原（2006〔2000〕）で用いられているカタカナ表記を使用した。

II. 首里方言の原因・理由表現

首里方言の原因・理由をあらわす形式には「クトゥ〈から／ので〉、カラ〈から／ので〉、シニチーテー（シンチーテー）〈から／ので〉、ヌ〈から／ので〉、ムンヌ〈ので〉、ムヌ〈ので〉、ヤクトゥ〈だから／なので〉、デーモン〈だから〉、アンスクトゥ〈だから〉、タミニ〈ために〉、ンディ〈ために〉、ウカジニ〈おかげで〉、ユイニ〈ゆえに〉」などがある。

本稿では、これらのうちもっとも基本的な形式である「から」と「ので」にあたる「クトゥ、カラ、シニチーテー（シンチーテー）、ヌ、ムンヌ、ムヌ」と「のだから」の形式に

あたる「ヤクトゥ、ヤルムンヌ」と「だから」にあたる「ヤクトゥ、ヤシニチーデー（シンチーデー）、アンスクトゥ」をとりあげる¹。

1. 「から」と「ので」の用法

首里方言の「から」と「ので」にあたる語として「クトゥ、カラ、シニチーデー（シンチーデーともいう²）、ムンヌ、ヌ、デーモン、ムヌ」などが挙げられる。これらのうち「ヌ、デーモン、ムヌ、カラ」は使用場面が限られており、主に用いられているものは「クトゥ、ヤクトゥ、シニチーデー、ムンヌ」である。また、「シニチーデー」もやや古風な言い方で、「クトゥ」や「ムンヌ」に比べると使用頻度は落ちる。なお、「ムンヌ」は逆接の接続助詞「のに」の用法も含んでおり、「から」「ので」の意味に限定して用いられる「クトゥ」を優先的に使う傾向がみられる³。

前田・日高・小西・船木（2006：232-233）では「から」と「ので」の「形式的な相違」を示しているが、首里方言では「から」と「ので」の判別は難しい⁴。国立国語研究所（2001[1963]）でも「クトゥ」と「デムヌ」を「から」と「ので」両方の例として挙げている⁵。

「クトゥ」は、首里方言の用言に接続する原因・理由表現として最も発達したものである。国立国語研究所（2001[1963]）によると「カラ」は「空間や時間の起点」や「通過する場所」「通行の手段」などを示すほか「原料や根拠などを示す」とする。同書によると原因・理由表現を示す「根拠」の例として「ウヌクトゥカラ〈そのことから〉」が挙げられているが、今回の調査項目の文では、ほとんど出てこなかった⁶。

¹ 残りの「タミニ、ンディ、ウカジニ、ユイニ」のうち、「ンディ」は動詞尾略形に接続し、「タミニ、ウカジニ、ユイニ」は動詞連体形や助詞「ヌ〈の〉」、代名詞に接続する。なお、「ユイニ」は古風な言い方で口語ではあまり用いられない。具体的には以下のように用いられる。

A：チカグロー メーナチ アミヌ フィンヤー（近頃は毎日雨が降るね）。

B：ウヌ {タミニ}、アレームノー カーラカンナティ スクエー スンヤー（その {ために}、洗濯物は乾かなくて困るね）。

ビンチョー ス {ンディ}、ガッコンカイ チャン（勉強する {ために}、学校に来た）。

アミヌ フタル {ユイニ}、アレームノー カーラチューウラン（雨が降った {ゆえに}、洗濯物は乾いていない）。

アリガ イチャル {ウカジニ}、トゥク ナトーッサー（彼が言った {おかげで}、徳 {に} になっているよ）。

² 音変化からすると「シニチーデー」から「シンチーデー」に変化したとみられるが、今回の調査では両方とも使用されていた。現段階では両者をどのように使い分けているのか明確ではないため括弧で括って示した。なお、A氏は「シニチーデー」を多く使用している。以下「シニチーデー」で示す（「シニ〈のに〉+チーデー〈ついては〉」が語源とみられる）。

³ 「クトゥ」は「こと」から変化した語。「ムンヌ」は「ムヌ」系統の語で「ムヌ」は「もの」から変化した語である。高橋（1991：353）には「「こと」は「したら」「したところ」という意味と「ので」「から」という意味を表す。そして、『おもろさうし』の頃までは前者の意味を表すばあいが多かったが、その後しだいに逆になった。これに対し、「もの」は「ので」「のだから」という意味と「のに」という意味を表し、古記類の頃まではもっぱら前者の意味を表していた。組踊の頃にアリ、ヲリ、ハベリ系の語にかたよって接続するようになる。『琉球語文典及び語彙』の頃から、以前の「準連体形（下略形）+もの」の形にたいし、あらたに「連体形+もの」の形が生じた。しかし、その時はすでに「こと」が「ので」の意味を表す機能を十分に果たしていたので、「もの」は「のに」の意味と強意とを表す機能が発達した。」とある。

⁴ 山口・秋本（2001：622-623）には「ので」の方が「から」よりも制限があることが示されているが、今回の調査では両者を区別する細かな調査を行えなかった。今後の課題としたい。

⁵ 国立国語研究所（1998[1963]）では「から」にあたるものを「-demunu, -kara, -kutu, -naadi」, 「ので」にあたるものを「-demunu, -kutu, -munu, -nu, -sini ciitee, -siN ciitee」とする。

⁶ 中松（1973：39）では首里方言の「kara」の八番目の用法として「(8)理由・根拠」を挙げ、文例として「kutaNri kara du duu ja joojuru 疲労から（ぞ）身体は弱わる（諺）」と「hwiruma nu wutai kara minuwu sagati 昼間

「シニチーテー」は終助詞的な意味・機能をもたない。「シニチーテー」は「クトゥ」よりも使用頻度が低いとみられ、A氏によると「クトゥ」の部分「シニチーテー」に置き換えて用いることができる、とのことであった。国立国語研究所(2001[1963]:478)で「〔文・古〕⁷」とされる形式で、その後の中松(1973)では報告されず、「琉球方言助詞概説」(野原 1998:1-29)でも挙げられていないが、インフォーマントは「シニチーテー」を普段の会話でも使用しており、それほど古い表現形式ではないという。

「ムヌ」は国立国語研究所(2001[1963])に記されていないが、他の方言では報告されている形式である⁸。「ムヌ」は「ムヌ」⁹と置き換えて使用することができるが、今回の調査では「ムヌ」はほとんど用いられなかった。

「ヌ」は原因・理由表現の一つであるが、あえて文末に用いて言い切ることで「～できない。」という意味を持たせることができるため、文を続ける際には接続助詞「クトゥ」を使用することが多い⁹。「デーモン」は琉歌などの文語で多用される「デムヌ¹⁰」にあたる語で、本来は「ムヌ」を強調した表現形式である¹¹。

1-1. 事態の原因

動詞に接続する場合は、(1)尾略形¹²、否定形、過去・尾略形に接続するもの(「クトゥ¹³」)と、(2)尾略形に接続するもの(「シニチーテー」)がある。名詞やナ形容詞の語幹に接続するものには「ヤクトゥ、デムヌ」がある。形容詞に接続する場合は、語幹+サの語形¹⁴、否定形、過去尾略形に接続するもの(「クトゥ」)と語幹+サの語形につくもの(「ヌ／シニチーテー」)がある。

の疲れが眠気を誘う」を提示している。また、津波古(1992:374-375)でも首里方言の「-kara」を挙げているが、(ア)「移り動く場所、経由する場所」と(イ)「手段」を表しているとし、原因・理由の表現形式を示していない。なお、今回の調査でA氏が「カラ」を用いられたのは1-6-5、1-6-6である。

⁷ 「〔文〕は「ふつう文語としてのみ用いられる語」、〔古〕は「明治の中ごろから末期ごろにはすでにあまり用いられなくなっていたと思われる語」である。

⁸ 野原(1998:16)では那覇方言をはじめ多くの方言の接続助詞として「muNnu」が挙げられている。高橋(1991:352)では東条操[編]『南島方言資料』の資料として、首里方言の「ムヌ」を挙げている。西岡(2002:27-28)でも首里方言の接続助詞・終助詞「ムヌ」を挙げている。また、仲原(2001:62-63)では久米島真謝方言の接続助詞、終助詞それぞれに「ムヌ」を挙げている。

⁹ 「ヌ」は「イッペーマギサヌ、イランドー(とても大きくて、入らない。)」のように用いることができるが、「クレア アマサ {ヌ} <これは甘い {から／ので}>。」のように用いて「これは甘い {から／ので} (食べられないよ。)」のように文末を「ヌ」で言い切ることににより、後件の部分を言わなくても相手に伝えることができる。西岡・仲原 2006[2000]ではこれをサ形容詞の「ヌ形」としている。

¹⁰ 口語では「デーモン」を用いることが多いが、やや古風な言い方で「デムヌ」に置き換えても使用可能。なお、「デーモンヌ <であるのだ (から／ので)>」という表現形式もあり、「ワラビ {デーモンヌ} ワカランヨー <子どもなのに (なんだから) わからないよ?>」のように用いられる。しかし、「のに」に相当するのかわ「から／ので」に相当するのかわ判別しづらいため、今回は取り扱わない。今後の研究課題である。

¹¹ 「デムヌ」は「ドゥ ヤムヌ」から変化した語(「ドゥ」は係助詞で用言を連体形で結びと意味を強める働きがある)。

¹² 尾略形は、動詞終止形(「連用形+居る wuN」から音変化)の末尾の-Nを省略した語形で、国立国語研究所(1998[1963])では「短縮形 (apocoped form)」とする。「クトゥ」の他にも、「シガ (けれど)」、「シ (もの)」「シェー (もの)」「ガ (か)」「ミ (か)」などが下接する。

¹³ 「クトゥ」の接続については西岡(2002:30)で詳しく報告されている。

¹⁴ 西岡・仲原 2006[2000]では「サ語幹」としているが、形容詞の語幹にサが付いた形、あるいは形容詞の終止形(語幹+さ+有る?aN)の末尾のNを省略した形(動詞の尾略形にあたる形)と考えることもできる。

- 1-1-1. メーナチ アミヌ フイ {クトゥ／シニチーテー}, アレームノー
カーラカン。〈毎日雨が降る {から}, 洗濯物は¹⁵乾かない。(動詞述語)〉
- 1-1-2. メーナチ アミ {ヤクトゥ／デムヌ}, アレームノー カーラカン。
〈毎日雨 {だから}, 洗濯物は乾かない。(名詞述語)〉
- 1-1-3. ティンチヌ ユタサ {クトゥ／ヌ／シニチーテー}, アレームノー ユー
カーラチュン。〈天気がいい {から}, 洗濯物はよく乾く。(形容詞述語)〉
- 1-1-4. クヌ ジャシチェー シジカ {ヤクトゥ／デムヌ}, シクチェー ユー ナイン。
〈この部屋は静か {だから}, 仕事はよくできる。(形容動詞述語)〉
- *1-1-5. ユービ ウーアミヌ フタ {クトゥ／シニチーテー}, ジーンカイ ミジタマイ
ディキトーン。
〈夕べ大雨が降った {から}, 地面に水たまりができています。(動詞述語)〉
- *1-1-6. ワラビ {ヤクトゥ／デムヌ}, ワカラントン。
〈子ども {だから}, わからなかった。(名詞述語)〉

1-2. 行為の理由

- 1-2-1. ドゥーヌ アンベーヌ ワッサ {クトゥ／シニチーテー}, シクチ
ヤシムルクトゥンカイ サン。
〈体調が悪い {から}, 仕事を休むことにした。(叙述)〉
- 1-2-2. ドゥーヌ アンベーヌ ワッサ {クトゥ／シニチーテー}, チューヤ シグトー
ヤシマ。〈体調が悪い {から}, 今日は仕事は¹⁶休もう。(意志)〉
- 1-2-3. ユルヌミチェー クラサ {クトゥ／シニチーテー}, マジュン ケーラ。
〈夜道は暗い {から}, 一緒に帰ろう。(勧誘)〉
- 1-2-4. アカングラヌ ニントー {クトゥ／シニチーテー}, シジカニ シェー。
〈赤ん坊が寝ている {から}, 静かにしろ。(命令)〉
- 1-2-5. アカングラヌ ニントー {クトゥ／シニチーテー}, シジカニッシ
トゥラシェー。〈赤ん坊が寝ている {から}, 静かにしてくれないか。(依頼)〉
- *1-2-6. アミヌ フイ {クトゥ／シニチーテー}, カサ ムッチイキ。
〈雨が降る {から}, 傘を持って行け。(命令)〉

1-3. 判断の根拠

- 1-3-1a. フシヌ ッンジトー {クトゥ／シニチーテー}, アチャン イイー ティンチ
ンカイ ナイラハジ。〈星が出ている {から}, 明日もいい天気になるだろう。〉

¹⁵ 首里方言では後件に「～が」の文がきても「～は」になる傾向がある。ちなみに「アレームノー」は「アレームン (洗濯物) + ヤ (は)」が融合したもの。係助詞「ヤ」の直前に撥音がある場合は融合して「ノー」となる。

¹⁶ 「シグトー」は「シグトゥ (仕事)」 + 「ヤ (は)」が音融合したものである。

1-3-1b. A アチャン イイー ティンチンカイ ナイラハジ。

〈明日もいい天気になるだろう。〉

B ヌーンチ ワカイガ?¹⁷ 〈どうしてわかるの?〉

A フシヌ ヅンジトー {クトゥ}。〈「星が出ている {から}。」〉

1-3-2. フィジャイヌ イービンカイ イービナギー サチョー {クトゥ／シニチーテー}, ニービチ ソーンヨー。

〈左手の指に指輪をさしている {から}, 結婚しているよ。〉

*1-3-3. サックィーヌ ヅンジー, ニチファーファー ソー {クトゥ／シニチーテー}, ハナシチ カカトーラハジ。

〈咳が出るし, 熱っぽい {から}, 風邪 罹っているかもしれない。〉

*1-3-4. ナマサチ シンブンハイタツヌ ウトゥヌサ {クトゥ／シニチーテー}, ナーグジェー シジトーラハジ。

〈つい先ほど新聞配達の声がした {から}, もう5時は過ぎたのだろう。〉

1-4. 発言・態度の根拠

1-4-1. ウカーサ {クトゥ／シニチーテー}, クヌ カーラウウター, アシバンキ。

〈危ない {から}, この川では遊ばないでおけ (遊ぶな)。〉

*1-4-2. ハナシチ カカター ナラン {クトゥ／シニチーテー}, チノー カサビティチチ イキヨー。

〈風邪をひくといけない {から}, 着物は 重ねて着て出かけなさいよ。〉

*1-4-3. チューヌ シグトー ムル ウワトー {クトゥ／シニチーテー}, ナーケーラ。

〈今日の仕事は全部終わっている {から}, もう帰ろう。〉

1-5. 理由を表さない用法

1-5-1. シグ ムドゥティ チュー {クトゥ／シニチーテー}, クマンカイ

マツチャーティクイリ。〈すぐにもどってくる {から}, ここに待っていてくれ。〉

1-5-2. チュケーンッシ シム {クトゥ／シニチーテー}, ピラミッドンカイ

ヌブティンジブサン。〈一度でいい {から}, ピラミッドに登ってみたい。〉

1-5-3. ウニゲー {ヤイビークトゥ¹⁸}, ジン カラチ¹⁹ クィミソーレー。

〈お願い {ですから}, お金を貸してください。〉

*1-5-4. クルマ ユディトゥラス²⁰ {クトゥ／シニチーテー}, シグ ビョーイヌンカイ

¹⁷ 「チャーシ ワカイガ? (如何にして分かるの?)」でもよい。

¹⁸ A氏によるとお金を貸して欲しい相手に対して「だから」は使用しにくいので丁寧表現の「ですから」を使用。なお、1-5の中でこの1-5-3だけ「ヤシニチーテー」に置き換えることができない。おそらく前件の文で後件の原因・理由を具体的に述べていないことがその理由と思われる。

¹⁹ 首里方言には「貸す」に対応する語はなく「カラスン (貸せる)」で「貸す」ことを表現する。

²⁰ テ形+トゥラスンは「～してとらす」に対応しているが、ここでは終止形なので「～してあげる」の意となる。こ

イケー。〈車を呼んであげる {から}, すぐに病院に行きなさい。〉

*1-5-5. ツクエヌ ウィーンカイ ウチエー {クトゥ／シニチーテー}, ワー ジンイリ
トゥティクィランナー。

〈机の上においてある {から}, 私の財布を取ってくれないか。〉

1-6. 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

1-6-1. A ブックチ²¹ ヤン。〈気分が悪い。〉

B アングトゥ ウフオーク ヌム {クトゥ} ヤー。

〈あんなにたくさん飲むからね。〉

1-6-2. A チューヤ デパートー ツチュヌ ウフオーク イッチョーンヤー。

〈今日はデパートは人が多く入っているね。〉

B ニチヨービ {ヤクトゥ／シニチーテー} ドゥ ヤルハジヤー。

〈「日曜日だから (ぞ) だろうね。〉

1-6-3. A チカグロー, タルーヌ チジンヌ ワッサンヤー。

〈近頃は, 太郎の機嫌が悪いね。〉

B ッヤーガ ジルーヌ クトゥビカージ フミー {クトー} アランガヤー。

B' ッヤーガ ジルーヌ クトゥ ビカージ フミール {カラー²²} アランガヤー。

〈おまえが次郎のことばかりほめるからじゃないかな?〉

1-6-4. A チカグロー, タルーヌ チジンヌ ワッサンヤー。

〈近頃は, 太郎の機嫌が悪いんだ。〉

B ワーガ ジルーヌ クトゥビカージ フミー {クトゥ} (ドゥ²³) ヤガヤー。

B' ワーガ ジルーヌ クトゥ ビカージ フミール {カラー} アランガヤー。

〈私が次郎のことばかりほめるから (ぞ) なのかな。〉

*1-6-5. A チカグロー, タルーヌ チジンヌ ワッサンヤー。

〈近頃は, 太郎の機嫌が悪いね。〉

B ジルービケーヌ フミラリー {クトー} アランガヤー。

B' ジルービケーヌ フミラリール {カラー} アランガヤー。

〈次郎ばかりほめられるからではないかな。〉

*1-6-6. A ヤーウチーヌ アトゥカラ, パソコンヌ アンベーヌ ワッサン。

〈引っ越しの後から, パソコンの調子が悪い。〉

B ウレー, エーディン ハクブルバスニ ウトゥチャ {クトゥ} (ドゥ)

れが「トゥラシェー」のように命令形だと「～してくれ」の意となる。

²¹ ブックチはブククチ (国立国語研究所 2001[1963]: 136) から音変化した語。

²² 「カラー」は用言の連体形, あるいは「クトゥ」に下接する。なお, 今回の調査では「カラ」が単独で使用された資料は得られなかった。なお, 「カラー」は接続助詞「カラ」に係助詞「ヤ」が融合したもので「からは」に相当する。

²³ A氏によると係助詞の「ドゥ」はあった方がしっくりくる、という。以下、同様の係助詞は()で括弧で示す。

ヤルハジドー。〈それは、きっと運ぶときに落としたから（ぞ）のはずだ。〉

1-7. 従属節内のモダリティ表現

1-7-1. 伝聞・推定表現など

1-7-1-1. チューヌユロー アミヌ フインディ ツユ {クトゥ／シニチーテー},
フェーベートゥ ケーラ。〈今夜は雨が降るという²⁴ {から}, 早めに帰ろう。〉

1-7-1-2. チューヌユロー アミヌ フインディヌ クトゥ {ヤクトゥ／ヤシニチーテー},
フェーベートゥ ケーラ。

〈今日の夜は雨が降るとのこと {だから²⁵}, 早めに帰ろう。〉

1-7-1-3. チューヌユロー アミヌ フイギサー {ヤクトゥ／ヤシニチーテー},
フェーベートゥ ケーラ。〈今日の夜は雨が降りそう {だから}, 早めに帰ろう。〉

1-7-1-4. ヌーガヤラ ニチヌ ッンジトールフージ {ヤクトゥ／ヤシニチーテー},
フェーベートゥ ケーイルクトゥンカイ チャン。

〈どうやら熱が出ているよう {だから}, 早めに帰ることにした。〉

1-7-1-5. アミヌ フイギサラ ワカラン {クトゥ／シニチーテー}, カサ
ムッチチャン。〈雨が降るかどうか分からない {から}, 傘を持ってきた。〉

1-7-2. 推量表現

1-7-2-1. アミヌ ファイルハジ {ヤクトゥ}, カサ ムッチイキ。

〈雨が降るだろうから, 傘を持っていけ。〉

1-7-2-2. ヤマウテー ウフォーク フトータラハジ {ヤクトゥ}, ナダレヌ シワ
ヤッサー。〈山では多く降っていただろうから, 雪崩が心配だ。〉

1-7-2-3. ウーブイエー サン ハジ {ヤクトゥ／ヤシニチーテー}, カサー
ムッチェー イカン。

〈たいした雨にはならないだろうから, 傘は持っていかない。〉

1-7-2-4. フカー フィーサラハジ {ヤクトゥ／ヤシニチーテー}, チノー
カサビティ ッンジラ。

〈外は寒いだろうから, 着物を重ねて出かけよう。〉

1-7-2-5. ナマヌ ヨーシカラシーネー アチャン アミ ヤルハジ {ヤクトゥ／
ヤシニチーテー}, イェンスコー トゥヤミンカイ ナイラハジ。

〈この様子からすると明日も雨だろうから, 遠足は取り止めになるだろう。〉

1-7-3. 丁寧表現

²⁴ 首里方言には「降るそう {だから}」の「そう」にあたる語がないので「降るという {から}」に変更した。

²⁵ 「雨が降るらしい」という伝聞

1-7-3-1. イフェー ウファナシヌ アイビー {クトゥ／シニチーテー}, クマンカイ
ッチ ウタビミシェービリ。

〈ちょっとお話がありますので, ここに来てください。〉

1-7-3-2. ウカーサイビー {クトゥ／シニチーテー}, ヌイムンカイ アッタニ
ヌイシェー ヤミヤビラ。

〈危険ですので, 乗り物に急に乗るのはやめましょう。〉

*1-7-3-3. ツンマリジマ²⁶カラ フタウヤヌ チャービー {クトゥ／シニチーテー},
チューヤ イフェー フェーク ケーラチ ウタビミシェービリ。〈生まれ故郷
から両親が来ますので, 今日は少し早めに帰らせてくださいませ。〉

1-8. 文末用法

1-8-1. 倒置

1-8-1-1. クマウウテイ イチュター マッチョーケー。シグ ムドゥウティ
チュー {クトゥ／ (シニチーテー²⁷)}。

〈ここでちょっと待っていて。すぐにもどって来るから。〉

*1-8-1-2. イチュター ゴセンエン カラチクィレー。チチシーマディニ
ケース {クトゥ／ (シニチーテー)}。

〈ちょっと, 5千円貸してくれ。月末までに返すから。〉

*1-8-1-3. エキマディ ンケーガ ッチトゥラシェー。シチジマディニ チチュ {クトゥ
／ (シニチーテー)}。〈駅まで迎えに来てくれ。7時に着くから。〉

1-8-2. 終助詞的用法

首里方言の原因・理由表現のうち、終助詞的用法を持つ表現形式は「クトゥ」である。
終助詞的に用いられる場合は終助詞「ヤー」が下接する。ただし、今回の調査項目のうち
1-8-2-4 から 1-8-2-6 についてのみ「クトゥ」が使用可能²⁸で、その他の調査項目で用いる
と不自然な文となる。

1-8-2-1. アトゥカラ, ナー チュケーン デンワ スサ。

〈あとで, もう一度電話するからね (するよ)。〉

1-8-2-2. イットウチ フカンカイ ツンジチューシガ, オヤツ, プリノー

²⁶ 「ツンマリジマ (うまれ島)」の「シマ」は「島」そのものも意味するが、「集落」や「故郷」も意味する。「縄張り」を意味する「しま」と関わりがあると思われる。なお、沖縄以外で製造された品物と沖縄県産品を区別する際にも「シマサバ (島草履)」, 「シマザキ (シマジャキとも) (島酒)」, 「シママース (島塩)」などのように用いる。

²⁷ 「シニチーテー」は後件がある場合に使用される表現形式であるが、このような倒置文の場合には使っても違和感がなく、使用できなくもないという。しかし、通常は「クトゥ」を使用することなので、さらなる調査が必要だが、今回は括弧で括って示しておく。

²⁸ 使用できる文の場合、たとえば1-8-4だと「{クトゥ} ヤー」の後に「覚えているよ」などの意味を含めているという。

レーゾーコンカイ イッチョーサ。〈ちょっと外に出かけてくる けど、おやつ、プリンは冷蔵庫に入っているからね (いるよ)。〉

1-8-2-3. ッヤー クトー チャーシン ワシララン {クトゥ} ヤー。

〈君のことどうしても忘れられないからね。〉

1-8-2-4. ターリーンカイ ウンニューキー {クトゥ} ヤー。

〈お父さんに申し上げるからね。〉

*1-8-2-5. ゴジマディ エキメヌ キッサテヌンカイ ウウ {クトゥ} ヤー。

〈5時まで駅前の喫茶店にいるから。〉

*1-8-2-6. イットウチュー、スーパーマディ コーイムンシーガ ッンジチュー {クトゥ}

ヤー。〈ちょっと、スーパーまで買い物に行ってくるからね。〉

*1-8-2-7. ヒミツ ヤンジーネー、チャーガ ナイラ ワカランドー。

〈秘密を破ったら、どうなるかわからないからな (わからないぞ)。〉

2. 「のだから」の用法

首里方言の「のだから」は「ヤクトゥ」と「ヤルムンヌ」である。「ムンヌ」は「ムン」で表すこともできる²⁹。「ヤクトゥ」は「ヤン」の尾略形「ヤ」に「クトゥ」が、「ヤルムンヌ」は「ヤン」の連体形「ヤル」に「ムンヌ」が下接したもので、いずれも「のだから」に相当する。

なお、首里方言では係助詞ドゥを用いて文末を連体形にすることで強調構文となり、「の」を強調した「ドゥ ～クトゥ (あるいはクトゥ ドゥ～)」があり、2-1 の調査項目の「～んだから」を首里方言に訳する際に好んで用いる表現である。

2-1. 「から (ので)」との相違

2-1-1a. ジカンヌ ネーンクトゥ {イスジャン/イスガ/イスゲー}。

〈時間がないから {急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}。〉

2-1-1b. ジカンヌ ネーンドゥ アクトゥ {イスジャン/イスガ/イスゲー}。

〈時間がないんだから {急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}。〉

2-1-2. ティンチヌ ユタサ {クトゥ/ドゥ アクトゥ} サンポ サン。

〈天気がいい {から/んだから} 散歩した。〉

*2-1-3. メーナチ アミヌ フイ {クトゥ/ドゥ スクトゥ} アレームノー カーラカン。

〈毎日雨が降る {から/んだから} 洗濯物が乾かない。〉

*2-1-4. ユービ ウフアミヌ フタ {クトゥ/クトゥドゥ} ジーンカイ ミジタマイヌ

²⁹ A氏よりも年長者である首里方言のインフォーマント(H氏。男性。1917年生まれ。)に「ムン」を使用するかどうかが確認したところ、「ムンヌ」に比べて「ムン」は相手がいないような場合、例えば「独り言」のような言い方であれば「クングトゥ チバテール {ムン}、エーディン クンドーディキトーラハジ〈こんなに頑張った {のだから}、きつと今度ではできているはずだ。〉」のように用いることができるが、通常は使用しないということであった。

ツンジトーン。〈タベ大雨が降った {から／んだから} 地面に水たまりができています。〉

2-2. 意味・用法

2-2-1. 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1. クングトゥ³⁰ {チバテークトゥ／チバテールムンヌ} エーディン クンドー
ディキトーラハジ。

〈こんなに頑張った {から／んだから}, きっと今度はできているはずだ。〉

2-2-1-2. カンヌーナ ハナシ {ソークトゥ／ソールムンヌ}, ワラベー アマンカイ
ツンジョーケー。

〈大事な話をしている {から／んだから}, 子どもはあっちへ行ってなさい。〉

2-2-1-3. ワンネー チムカラ³¹ {ヤクトゥ／ヤルムンヌ}, ナバクンナケー。

〈私は真剣 {だから／なんだから}, からかわないでおけ (からかうな) よ。〉

2-2-2. 聞き手に関する情報－行動要求・認識要求

2-2-2-1. ツヤーヤ {ワカサクトゥ／ワカサルムンヌ}, チュケン タケーンヌ シー
ヤンジ³² サンテーマン ウミーヤミー スナケー。〈君は {若いから／若いん
だから}, 1度や2度の失敗をしたからといってくよくよするなよ。〉

2-2-2-2. ジュケンシー {ヤクトゥ／ヤイドゥ スル; ヤルムンヌ}, ナーフィン
ハマティ ビンチョー シェー。

〈受験生 {だから／なんだから}, もっと一生懸命勉強しろ。〉

2-2-2-3. アッタル リューガク {ヤクトゥ／ヤルムンヌ; ヤイドゥ スル³³},
チャントゥ ビンチョーッシ クーヨー。

〈せっかく留学する {から／んだから}, ちゃんと勉強して来いよ。〉

2-2-3. 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1. ジカノー ナーダ ジューブン {アクトゥ／アルムンヌ}, ヨーンナー
ユクティ ツンジクィレー。

〈時間はまだ十分あるんだから, ゆっくり休んでいってくれ。〉

*2-2-3-2. ウンマ バスン マタ {アクトゥ／アルムンヌ／アイドゥ スクトゥ}, イジ
ツンジャシェー。〈そんな機会はまたあるんだから, 元気を出せ。〉

*2-2-3-3. ヤガティ タイイン {ナイクトゥ／ナイルムンヌ／ナイドゥストゥ}, ナー

³⁰ 「クングトゥ」は直訳すると「このように」。

³¹ 「チムカラ」は「肝（心）から」にあたる語。「真剣」を「心を込めた行為」と意識した。なお、やや大げさな表現ではあるが「ヌチカジリ（命懸け、一生懸命）」に置き換えても良い。

³² 「シーヤンジ」は「することが破れ（た状態）」なので「失敗」の意となる。

³³ 「んだから」にあたる表現は、「ムンヌ」の他にも係助詞「ドゥ」による強調表現も認められる。

イフィヌ ニジークネードゥ ヤッサミ？

〈もうじき退院できるんだから、もう少しの辛抱（ぞ）じゃないか。〉

2-2-4. 倒置

2-2-4-1. ドゥーヤ テーシチニ シーヨーヤー。ナー ワカコー {ネーンドゥ
アクトゥ／ネーランムンヌ}。〈体に気をつけろよ。もう若くないんだから。〉

*2-2-4-2. ドゥークル サダミレー。ナー ワラベアー アラン {クトゥ／ドゥ アクトゥ
／ムンヌ}。〈自分で決めろよ。もう子どもじゃないんだから。〉

*2-2-4-3. ウレー シワ スンヨー。ウヤ {ヤクトゥ／ドゥ ヤクトゥ}。
〈そりゃ心配するよ。親なんだから。〉

2-2-5. 終助詞的用法

2-2-5-1. ワンネー カンナージ アリトゥ ニービチ {スクトゥ／スル ムンヌ／
シードゥ スクトゥ}。〈私、必ず彼と結婚するんだから。(決意)〉

*2-2-5-2. クマヌ ヤファランケー シーネー、シグ シカシェーフリムヌンカイ
{ナイクトゥ／ナイル ムンヌ／ナイドゥ スルムンヌ}。
〈こっちが甘い顔を見ると、すぐ調子にのるんだから。〉

*2-2-5-3. アヌ ウィキガ ティラムン、アンシ サキグシヌ {ワッサクトゥ／ワッサ
ドゥ アクトゥ／ワッサル ムンヌ}。
〈あの男ときたら、まったく酒癖が悪いんだから (困ったやつだ)。〉

3. 接続詞「だから」の用法

首里方言の接続詞「だから」は、「ヤクトゥ、ヤシニチーテー、アンスクトゥ」である。今回の調査結果によると、前件が後件にどの程度関連するかによって両者を使い分けているようである。3-1-1 のように前件のみが後件の要因とは限定しづらい（この場合「毎日雨が降る」こと以外にも「干す時間帯が遅かったから」などの理由が考えられる）場合には「ヤクトゥ」を用いる。また、3-1-3 のように相手に待っていてもらう積極的な理由がある場合は「ヤクトゥ」よりも「アンスクトゥ」を用いる傾向がある。

なお、「ヤクトゥ／アンスクトゥ」は「A：チューヤ イッペー アチサンヤー〈今日はとても暑いね。〉」という問いに対して「B：ヤクトゥヤー／アンスクトゥヤー〈そうだね。〉」のように用いることができる³⁴。

「ヤシニチーテー」は「ヤン」の尾略形「ヤ」に「シニチーテー」が接続したも

³⁴ 例えば「A：チューヤ アチサンヤー (今日は暑いね)」に対して「B：ヤクトゥヨー (そうだね)」のように相手のことばをうけて答える場合に用いられる。

ので、「ヤクトゥ」や「アンスクトゥ」のように終助詞を伴ったもので一文をなすことはできない。

3-1. 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1. チカグロー メーナチ アミヌ フィン。{ヤクトゥ} アレームノー

カーラカン。〈近頃は毎日雨が降る。だから洗濯物が乾かない。(事態の原因)〉

*3-1-2. ナー ヤーカラ ッンジール サンジュップン メードー。{ヤクトゥ/ヤシン
チーテー} フェーク ウキリ。

〈もう家を出る時間の 30 分前だ。だから早く起きなさい。(発言・態度の根拠)〉

*3-1-3. シグ ムドゥティ チューサ。{アンスクトゥ} クマウゥティ マッチョーティ
クィレー。

〈すぐにもどってくる。だからここで待っていてくれ。(理由を表さない用法)〉

3-2. 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1. 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1. A : チカグロー メーナチ アミヌ フィンヤー。〈最近毎日雨が降るね。〉

B : アンヤサ。{ヤクトゥ/アンスクトゥ} アレームノー カーラカン
ナティ スクウェー スンヤー。

〈うん。だから洗濯ものが乾かなくて困るよ。〉

*3-2-1-2. A : チューヤ アミヌ フィンディヤー。〈今日は雨が降るそうだね。〉

B : {ヤクトゥ/アンスクトゥ} カサ ムッチ イキョーヤー。

〈だから傘を持っていきなさい。〉

3-2-2. 聞き手に結論を求めるもの

3-2-2-1. A : デーヂナトーン。アミヌ フティチョーン。〈大変だ。雨が降ってきた。〉

B : {ヤクトゥ ヌーヤガ?/ヤクトゥ ヌーガヌーンチ?}

〈だからどうしたと言うの?/だから何なの?/だから?〉

3-2-3. 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

3-2-3-1. A : ジコヌ アヤーニ デンシャ ウクリトーンディドー。

〈事故で電車が遅れているそうだよ。〉

B : アンヤミ。{ヤクトゥ ドゥ/アンスクトゥ ドゥ}, シナー ナーダ

クーンサヤー。〈そうか。だから, みんなまだ来ないんだ。〉

3-2-3-2. {アンスクトゥ／カン ナイクトウ³⁵} レンキューネー フカンカエー
ツンジーブシコー ネーンドゥ アンデー。

〈(これ) だから／(こうなるから) 連休に出かけるのは嫌なんだ。〉

3-2-3-3. {アンスクトゥ／アン ヤクトゥ} レンキューネー フカンカエー
ツンジーブシコー ネーンドゥ アンデー。

〈(あれ) だから 連休に出かけるのは嫌なんだ。〉

3-2-4. 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの。

3-2-4-1. {ヤクトゥ／アンスクトゥ} ヤミトーキンディ {イチャンドー／
イチャーサニ／イチャノーアラニ}。

〈だから, やめておけと {言ったのだ／言っただろう／言ったじゃないか}。〉

*3-2-4-2. {ヤクトゥ／アンスクトゥ} サンキンディ イチャノーアラニ？

〈だから, するなと言ったじゃないか〉

3-3. 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1. 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

3-3-1-1. A：キッサ タヌダル シグトー, チャントウ ッシクィリヨーヤー。

〈さっき頼んだ仕事, ちゃんとやってね。〉

B：イー, チューヌウチネー スサ。ナマー イフェー イチュナサクトウ
ナラーンドゥ アンデー。

〈うん, 今日中にやるよ。今ちょっと忙しくてできないんだ。〉

A：アチャマディネー ッシクィリヨーヤー。〈明日までにやってよ。〉

B：{ヤクトゥ／アンスクトゥ} チューヌ ウチネー

ス {ンディ イチャーエーサニ／サ}

〈だから, 今日中にやる {と言っているじゃないか／よ}。〉

*3-3-1-2. A：チューヤ ウニゲーヌ アティ チョーサ。

〈今日はお願いがあって来たんだ。〉

B：ヌーヤガ？ イチンデー。〈何？ 話してみなさい。〉

A：イッペー テーシチナ クトウ ヤンドー。〈とても大事なことなんだ。〉

B：{ヤクトゥ／アンスクトゥ} ハナシッシンデー。

(ハナシッシンデーエンディ イチャーエーサニ？)。

³⁵ 3-2-3-2 や 3-2-3-3 では、通常「アンスクトゥ」を使用するが、「カン〈こう〉」「アン〈ああ〉」のように指示代名詞で言い替えも可能。

〈だから，話してみなさい（話してみなさいと言っているじゃないか）。〉

3-3-2. 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1. A：キッサ タヌダル シグトー，ツシクイティー？

〈さっき頼んだ仕事，やってくれた？〉

B：ンー？ヌーヌ クトゥガ？〈え？ 何のこと？〉

A：{ヤクトゥ／アンスクトゥ}，ゴゼンチューナカイ タヌダル アヌ
シグトゥテヤー。〈だから，午前中に頼んだあの仕事だよ。〉

*3-3-2-2. A：チュー，チョードゥ タナカサヌンカイ イチャタンヨー。

〈今日，ちょうど田中さんに会ったよ。〉

B：マース タナカサン ヤガ？〈どの田中さん？〉

A：{ヤクトゥ／アンスクトゥ}，チヌー ハナシソータル サンチョーメヌ
タナカサンテヤー。〈だから，昨日話していた3丁目の田中さんだよ。〉

Ⅲ. まとめ

首里方言の原因・理由表現のうち、「から」「ので」「のだから」「だから」を取りあげた。首里方言でもっとも使用されているのが「クトゥ」で，その他の表現形式には何らかの制限があることが明らかになった。前田・日高・小西・舩木（2006：234）では『方言文法全国地図』の第33図（「雨が降っているから行くのはやめろ」）と第37図（「子どもなのでわからなかった」）を比較して「①「から」の調査文と「ので」の調査文で異なる形式を回答する地点は東日本に多く，山陰地方を除いて西日本には少ないこと，②「から」の調査文に現れる形式は「ので」の調査文にのみ現れる形式があること，などがわかる」としている。今回の調査結果から，首里方言でも「から」と「ので」双方の調査項目で「クトゥ」が使用されており，①の指摘のうち，西日本と共通の結果が出ている。また，②の指摘についても「ムンヌ」「ムヌ」など「から」ではなく「ので」に相当すると思われる形式があることがわかった。

本稿は首里方言の原因・理由表現の一部についてまとめたものであり，「ために」「ゆえに」「おかげで」などの表現形式も含めた報告が必要である。今後は今回の資料に加え，自然談話資料や先行研究で示された資料なども積極的に取り入れて再調査をおこない，稿を改めて報告したい。

参考文献

- 沖縄古語大辞典（1995）『沖縄古語大辞典』角川書店
内間直仁（1994）『琉球方言助詞と表現の研究』武蔵野書院
国立国語研究所[編]（2001[1963]）『沖縄語辞典』財務省印刷局

- 高橋俊三(1991)「助詞「こと」「もの」考」(『おもろさうしの国語学的研究』武蔵野書院:pp. 334-354)
- 津波古敏子(1992)「沖縄中南部方言」(亀井孝・河野六郎・千野栄一[編]『言語学大事典セクション 日本列島の言語』三省堂: pp. 369-388)
- 仲原 穰(2001)「久米島真謝方言の助詞」(内間直仁 編『琉球方言音韻・文法・語彙の研究―周辺諸方言との比較研究も含めて―〈その2〉』千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書 第3集: pp. 51-68)
- 中松竹雄(1973)『沖縄語の文法』沖縄言語文化研究所
- 野原三義(1998)『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所
- 西岡 敏(2002)「沖縄語首里方言の終助詞付き用言語彙資料」(『琉球の方言』26号 法政大学沖縄文化研究所: pp. 17-46)
- 西岡敏・仲原穰(2006[2000])『改訂版 沖縄語の入門 たのしいウチナーグチ』伊狩典子・中島由美[協力] 白水社
- 前田直子・日高水穂・小西いずみ・船木礼子(2006)「原因・理由表現」(大西拓一郎[編]『方言文法調査ガイドブック2』科研費報告書: pp. 231-252)
- 宮良信詳(2000)『うちなーぐち講座 首里ことばのしくみ』沖縄タイムス社
- 山口明徳・秋山守英(2001)『日本語文法大辞典』明治書院